

# 奈良市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年3月～26年3月)

※ 期間延長適用後

## 【中心市街地を巡る状況】

- 平城京として発展した1300年の歴史を誇り、世界遺産や多くの観光資源を抱える奈良市。  
→観光客へ依存する「大仏商法」。
- 奈良県の観光客の78%は近畿エリアから。  
(そのうちの約8割は県内・大阪府から。)
- 中心部から大型店が相次いで退店。郊外部や隣接市に大型ショッピングセンターが多数立地。



### ○観光客の減少

(市全体) H6: 1,375万人 → H18: 1,347万人 (△2%)

### ○歩行者・自転車通行量の減少(休日)

H3: 116,563人 → H17: 84,993人 (△27.1%)

### ○商業機能の衰退

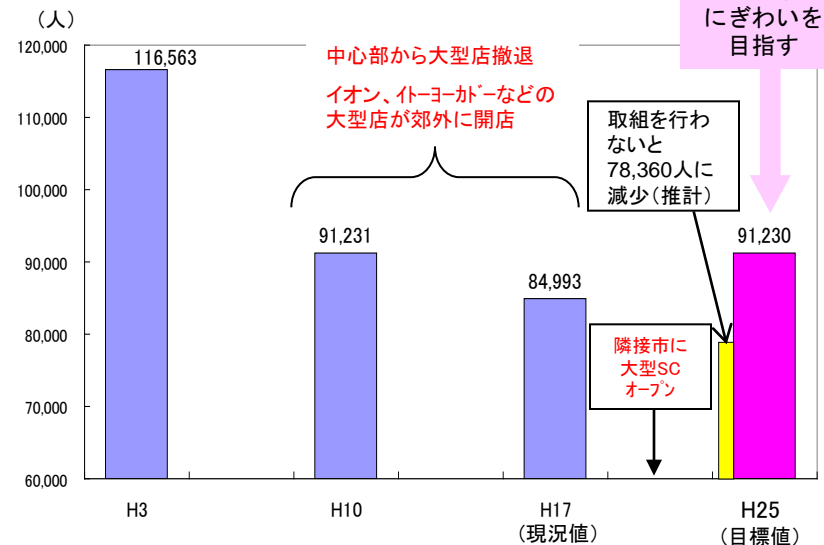
年間小売販売額 H9: 694.5億円 → H16: 494億円

(△28.9%)

## 【目標】

目標	指標	現況値	目標値 (H25FY)
訪れたいまち	文化・観光施設7施設年間入込客数	246,576人 (H18FY)	291,720人
歩きたいまち	歩行者・自転車通行量	84,993人 (H17FY)	91,230人
活力のあるまち	小売業年間販売額	435億円 (H18FY)	466億円

## 【歩行者・自転車通行量(休日)の動向と数値目標】



テナントミックス店舗や保健・教育分野の複合施設の整備を通じた『くらしの場』としての機能強化を行うとともに、古都の豊かな観光資源を活かしたにぎわい創出により、市民と観光客が共生する中心市街地を形成する。

# 奈良市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 訪れたいまち ～都市機能の向上～

○利便性の高いJR奈良駅周辺に**保健センター**や**IT講習室**などを備えた**複合施設**を建設し、市民が集まる環境を整備。



○JR奈良駅周辺にて**鉄道連続立体交差事業**を実施し、**ペDESTリアンデッキ**、**駅前広場**、**ホテル**等を整備し、都市機能の向上を図る。

## 訪れたいまち ～観光資源の活用による にぎわいの創出～

○世界遺産である興福寺の中門、中金堂、回廊の発掘調査、遺構の復元により観光客増を図る。

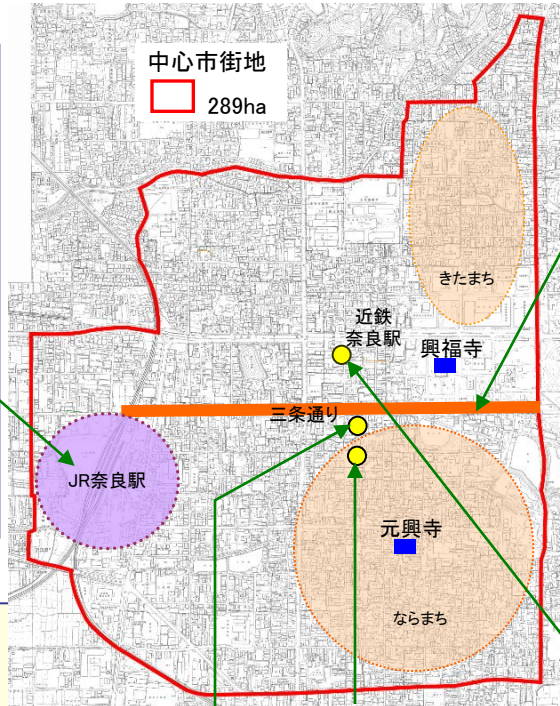


○なら燈花会、正倉院展とタイアップしたスタンプラリーなど**各種イベントの内容拡充**等や文化・観光施設の有効活用により賑わいを創出。



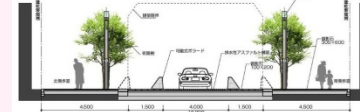
○新たな賑わい拠点として、元印刷工場を**小劇場**、**郷土料理レストラン**に再生。

○ならまち(歴史的町並み、文化観光施設、寺社等)、きたまち(まちかど博物館等)等で観光資源の有効活用によるまちなか観光や様々なイベント等を実施。



## 歩きたいまち ～安心して歩いて楽しく過ごせる空間の整備～

○メインストリートである**三條通り**の歩道を**拡幅**、**ベンチ**等を設置し、安心して歩ける空間へ。日祝日は**歩行者天国**を実施し、にぎわいを創出。



○中心市街地内の2大学(奈良県立大学、奈良女子大学)と商店街の連携による**各種イベントの実施**等により、歩いて楽しい商店街を形成。



○春・秋の観光シーズンの慢性渋滞を解消するため、**パークアンドバスライド**・**サイクルライド**を実施し、安心・安全な歩行空間を確保。

○全国都市再生モデル調査を活用し、まちなか循環バスなど環境に配慮した**新しい交通システム**を検討中。

## 活力のあるまち ～商業の活性化～

○スーパー撤退後7年間空き店舗だったビルに**生鮮3品**等の**テナントミックス店舗**を整備し、市民の生活を支える商店街を構築。



○**近鉄奈良駅近接地**に周辺の景観とマッチした**和モダン調の複合商業施設**を整備し、にぎわいを創出。



○大仏商法と称される商店街で「**お客様もてなし運動**」など接客マナーの向上、一店逸品事業、ならブランドの開発等により活性化を図る。

○商店街内の商業インキュベータ施設「**夢キューブ**」を活用し、若者を中心とした起業家の育成を図る。

## 活力のあるまち ～まちなか居住の促進～

○中心市街地内には老朽化した町屋が多いことから、**建替え相談事業**を実施し、まちなか居住の促進を図る。